



# 哲學研究

第五卷 第一冊

第十四六號

大正九年一月一日發行

北米の國土と其藝術……………文學博士 松本亦太郎

道徳と幸福との關係について……………文學博士 藤井健治郎

……………文學博士 藤井健治郎

佛教の預言說……………文學士 手島文倉

神と創造……………文學士 久松眞一

基本的と附加的と……………文學博士 野上俊夫

京都帝國大學文學部  
京都哲學會



フイロ全世ノナニ...

## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
  - 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
  - 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推選シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
  - 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年參圓四拾錢、前後二期ニ分ケテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

### 書記

|      |       |
|------|-------|
| 文學博士 | 波多野精一 |
| 文學博士 | 西田幾多郎 |
| 文學博士 | 朝永三十郎 |
| 文學博士 | 千葉胤成  |
| 文學博士 | 狩野直喜  |
| 文學博士 | 米田庄太郎 |
| 文學博士 | 高瀬武次郎 |
| 文學博士 | 田邊元   |
| 文學士  | 務臺理作  |
| 文學士  | 植田壽藏  |
| 文學博士 | 野上俊夫  |
| 文學博士 | 松本文三郎 |
| 文學博士 | 深田康算  |
| 文學博士 | 藤井健治郎 |
| 文學博士 | 小西重直郎 |
| 文學士  | 澤村專太郎 |
| 文學士  | 寶嚴方治  |

# 彙報

## 哲學倫理學會

十一月廿七日例會を開き左の講演あり  
フイヒテの歴史哲學に就いて。

文學士 久保正 夫君

西田朝永田邊の三博士其他十七名出席

## 印度宗教學會

十一月十三日午後六時より文學部第六教室に於て 近く歐米留學に就かるゝ羽溪文學士の送別を兼て例會開催

一、兩部大經の相承に就いて。 藤田 弘 純君

二、眞宗の原始教團の狀態に就いて。 阿部 文學士

一、支那旅行談 那波 文學士

來會者 荒木總長寺本講師羽溪、赤松、宇野、藤井、原、鳥越、手島、藤崎、大地原、本田各學士其他學生、

## 心理學讀書會例會

十一月十三日

ヴント以前の民族心理學 文學士 石神總門君

十一月二十日

Wilasok, Grundriss der Psychologie.

十一月二十七日

Rich, G. J. A Study of Tonal Attributes.

文學士 岩井勝二郎君

十二月四日

Minsterberg, H. Die Willenshandlung.

大脇 義一君

十月十一日

糖攝取の筋作業能率に及ぼす効果

文學士 黒田 源次君

十二月十八日

Maupassant の作品に現はれたる女性の心理

野上 教授

## 社會學會

十一月二十七日學生集會所に例會開催次の講演あり

オネイダ、コミュニニチーに就いて

白井 頼吉君

## 寄贈書籍雜誌

善の本質 文學士 福井晋太郎譯 目黒書店發行

哲學叢誌、丁酉倫理講演集、心理研究、無盡燈、六條學報、東洋哲學、六合雜誌、早稻田文學、學校教育、教育、内外教育評論、

教育界、教育研究、教育時論、現代教育、東京教育、静岡縣教育、  
 近江教育、岐阜縣教育、三重教育、愛知教育、信濃教育、佐賀縣  
 教育、教育學術界、愛媛教育

## 前 號 目 次

|                    |      |        |
|--------------------|------|--------|
| 山崎闇齋の學說            | 文學博士 | 高瀬武次郎  |
| 善惡因果の内面觀           | 齋藤   | 唯信     |
| 價値の體系(二)           | 法學博士 | 左右田喜一郎 |
| フイヒテの道德學に就ての考察(承前) | 文學士  | 世良 壽男  |
| 拙著『社會學原理』の批評に答ふ    | 文學士  | 高田 保馬  |
| 學界近況               |      |        |
| 彙報——新著紹介           |      |        |

註文規

- ◎會員にあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候
- ◎本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下さるべく候
- ◎振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候
- ◎前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
- ◎見本御入用の場合は金參拾錢御送り下され度候
- ◎特に講求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

定價

|      |        |        |        |        |        |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 冊    | 冊      | 冊      | 冊      | 冊      | 冊      |
| 一    | 六      | 十一     | 十二     | 冊(前金)  | 冊(前金)  |
| 冊    | 冊      | 冊      | 冊      | 冊      | 冊      |
| 金參拾錢 | 金壹圓八拾錢 | 金參圓六拾錢 | 金參圓六拾錢 | 金參圓六拾錢 | 金參圓六拾錢 |
| 郵    | 不      | 不      | 不      | 不      | 不      |
| 稅    | 壹      | 中      | 中      | 中      | 中      |
| 錢    | 錢      | 錢      | 錢      | 錢      | 錢      |
| 受    | 受      | 受      | 受      | 受      | 受      |

廣告料 一頁 金拾圓 半頁 金六圓

會告

- 一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候
- 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候
- 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 文學部内 京都哲學會  
振替口座大阪參〇六六參番

發賣元

東京市日本橋區本石町三丁目 寶文館  
大阪市東區淡路町四丁目 寶文館

賣捌所 (東京) 東京堂、東海堂、北隆館、  
上田屋 (大阪) 盛文館 (京都) 寶文館  
寶文館 (神戸)

發行所

東京市日本橋區本石町三丁目 寶文館  
(振替口座東京二八〇番)

製複許不  
載轉禁

編輯者 京都帝國大學文學部内 京都哲學會  
右代表者 寶嚴方治  
發行者 大葉久吉  
印刷者 青柳十一郎  
印刷所 秀英舎第一工場

大正八年十二月二十七日印刷納本  
大正九年一月一日發行 第四十六號 第五卷 第一册

◀ 著名の讀必下刻 ▶

廣島高等師範學校教授 文學士 高田保馬著

最新刊

社會學的研究

布裝全壹冊  
定價金貳圓  
送料金八十錢

著者、社會學の研鑽に従事せらるゝこと既に十年、常に斯學の純理に没頭して、其發達の趨勢に後れざらんと努力せられたり。本書は其間に成れる苦心の勞作十二章を收む。冷靜氷の如き理論に包むに、人類の愛、詩的情熱を以てする所、一卷の特色にして、又充分に著者の學風を味ふに足るべし。特に又大戰の終結と共に、世界に於ける社會組織の變革將に近からんとす、此時勢の必要に應じて、社會の根本的性質を明かにし、社會的思潮の眞髓を味はむとする人士にとりては、最も有益なる大文字なり。

本書の要目

- 一 社會進化論の性質
- 二 社會法則の性質
- 三 統計的方法と歸納法
- 四 生死減少逆行の法則
- 五 貧富と出生率
- 六 分離論

七十八十九十

- 一 社會的定量の法則
- 二 分業について
- 三 家族的將來と社會の團結
- 四 資本家的集積說の研究
- 五 優生學是非
- 六 現代文明の迷妄—生産政策の否定

哲學研究 第四十六號 第五卷 大正九年一月一日發行(每月一回) (大正五年四月六日) (第三種郵便物認可) 定價金參拾錢

東京市日本橋區本町一丁目 寶文館 大坂市東區淡路町 大坂市東區大津 大坂市東區大津